

にしとべの丘

Nishi-Tobe no Oka



対面か？ リモートか？

<校長 石川 博>

新型コロナウイルスのデルタ株まん延により、8月中は臨時休業、9月からは分散登校になりました。教育委員会の通知に基づき、本校ではクラスを出席番号の奇数と偶数に分け、1日おきの登校としました。

さて、昨年からの感染拡大で、GIGAスクール構想(Global and Innovation Gateway for All)は急速に進展しています。今考えてみると、令和元年に「児童・生徒一人ひとりに1台の端末」ということが出されたとき、実現はいつのことか、と思っておりましたが、莫大な予算をかけて前倒しで急速に進みました。本校でも生徒一人に1台の端末を渡し、授業で使えるようにしています。9月からは家庭へ持ち帰り、健康観察の報告をしています。3年生では授業のライブ配信を始めました。これからは、家庭でも授業を受けられたり、タブレット端末を使ってブレイクアウトセッションのようなこともできたりするようになっていくと思います。

私たち職員もタブレット端末の操作に慣れていかなければなりません。市教委による研修はリモートで行うことが多くなり、研修は動画配信、会議はZoomやGoogle Classroomで行います。先日の職員会議では、職員室の密を避けるために職員を他の部屋に分け、発言者は校長室から端末に向かって発言し、それをモニターで見るようにしました。私からの話でも端末に向かって話をします。そういえば、全校朝会も私は会議室のテレビカメラに向かって話をしました。

このような形は、一方的な伝達では支障がないのですが、話す方からすると相手の顔が見えないので、反応が全くわかりません。授業も同じで、授業は先生と生徒とのやり取りの中で進められていきます。先生は生徒がどのような状態であるか、どのように反応するかによって、問いかけ方や進め方を調整するのです。わかりやすい例が、1時間目の授業と6時間目の授業では、生徒の体力も集中力もモチベーションも違ってきますから、当然授業者はそれを考慮して授業を進めていきます(少なくとも私はそうでした)。最大で40人をモニターに映して顔が見える状態で授業をすることも可能ですが、生徒が操作に手間取ったり、ネット環境に左右されてしまったりすることも考えられ、現実的にはもう少しさきの話ではないかと思えます。

「対面か」「リモートか」は二項対立的なものではなく、これからは、対面の授業とリモートの授業とをうまく使い分ける、それぞれの良さを生かした授業をつくる技術が教員に求められてくるのではないかと思います。



がっこうほけんいんかい
学校保健委員会「THE☆思春期・反抗期～西中バージョン2021～」

夏休み直前の7月16日（金）、全校生徒が参加し学校保健委員会を行いました。昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症予防対策として、クラスごとに教室で保健美化委員会の生徒による発表をテレビ生放送にて視聴する形で開催しました。内容は、

- 1 思春期・反抗期に関するアンケート結果
（アンケート実施は5月）
- 2 スクールカウンセラー佐藤先生に質問（インタビュー）
- 3 思春期あるある劇
- 4 西中の先生へインタビュー
- 5 レジリエンス（心の回復力・立ち直る力）について

でした。

1のアンケート「あなたは今、どんな状態だと思えますか？」では、以下のような結果でした

	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子	3年男子	3年女子
まだ反抗期ではない	33%	34%	37%	32%	22%	10%
反抗期は始まっている	45%	48%	37%	36%	31%	48%
反抗期真っ最中	11%	7%	18%	20%	24%	10%
反抗期卒業	11%	11%	8%	12%	23%	32%

全学年で男女ともに半分以上の生徒が現在反抗期であることがわかります。

また、「反抗している相手は誰ですか？」では、全ての学年で、『母』『父』と答えた生徒が多く、「反抗するのはどんな時が多い？」では、3年女子が一番多かったのは『訳もなくイライラしている時』、3年女子以外では『勉強しろと言われたとき』でした。

これは、「今、思春期で悩んでいることは何ですか？」と聞いた結果です。

	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子	3年男子	3年女子
1位	人からどう見られているか外見や人からの評価	人からどう見られているか外見や人からの評価	人からどう見られているか外見や人からの評価	これから自分はどうすればいいのか進路や部活など	これから自分はどうすればいいのか進路や部活など	これから自分はどうすればいいのか進路や部活など
2位	人と自分を比べてしまうこと	人と自分を比べてしまうこと	人と自分を比べてしまうこと	人と自分を比べてしまうこと	人からどう見られているか	人と自分を比べてしまうこと
3位	自分に自信が持てない	自分に自信が持てない	これからの自分	人からどう見られているか	自分に自信が持てない	人からどう見られているか

視聴した生徒のふりかえりから、「思春期の悩み、みんなもそう思っているんだ、自分

だけじゃないんだ、自分と同じ人もいるんだ、安心した」などの意見が多数ありました。親と思春期の子の日常を再現したあるある劇は、保健美化委員の熱演(?)もあり、「本当によくあるあるあるで笑っちゃいました」「演技が上手で分かりやすかった」と共感した生徒が多かったです。

学校保健委員会の発表に向けて、保健美化委員のメンバーは、アンケートの集計と考察、劇の撮影や先生方へのインタビュー、台本作成、プレゼンテーション資料の作成、リハーサルと、放課後にたくさんの時間をかけて準備をがんばりました。

昨年に引き続き、保健美化委員の見る人を飽きさせない工夫した発表内容が生徒に好評でした。

食育コラム「食で学ぶ 食を学ぶ」

元横浜市教育委員 長島 由佳

秋の風がそよぎ始め、過ごしやすいい日々になりました。本来であれば青空の下、体育祭や健民祭など、地域が一体となってスポーツの秋を楽しむ時期です。

この頃、海の便りは秋の代名詞である秋刀魚(さんま)が店頭で現れ、脂ののった鰹のさくが刺身コーナーに並びます。時には氷の入った樽に1本丸のまま売られる姿も目にすると、つついとお得な気分が先行し、丸のまま購入してしまうのが我が家の秋の風物詩となっています。

1本丸ごとを捌くと味わえる特別の味があります。背・腹2本ずつのさくを取ると、中骨が残ります。その中骨を4~5つにカットし、血合いとともに霜降りをしたあと、生姜を利かせて甘辛く煮るのが一つめの楽しみです。背骨の中心の血合いをチューチュー吸いながらいただくのが醍醐味です。

そして厚めにカットした刺身は、生姜・小ネギ・茗荷など好みの薬味とともに醤油やポン酢でいただくもよし、胡麻油に塩とニンニクを加えた合わせ調味料でいただくもよし。そしてシメには、かつお茶漬けが待っています。それでも残ってしまった時には、「塩かつお」が翌日以降の楽しみとして待っています。

本来、「塩かつお」は静岡・西伊豆地方で「正月魚」と言われ、縁起物として3~4ヶ月を費やし手間暇かけて作られるものです。その足元にも及びませんが、我が家では残った切り身をバットに並べて強めの塩をして、1日以上置いたあと、ロースターなどで焼いていただきます。身は締まってパサッとした食感ですが、鰹の旨味が凝縮した1品となり、これもまた茶漬けに最高の味となります。

鰹は脳の働きを活性化するDHAが多く含まれ、血栓予防や増血作用、肝機能の働きを良くする効果など家族誰にでも適する栄養素がたっぷりです。



育ち盛りの中学生がいる各ご家庭では、どのおかずも「完食」で「塩かつお」までいかないかもしれませんが。しかし、今しかない中学生とのダイニングを秋の味覚とともに、食材あれこれ栄養あれこれを話題にさせていただき、大切な時間にしていただければ幸いです。そして、その時間を楽しむことこそが、何よりのご馳走であることも感じていただければと思います。